

平成 29 年 6 月 21 日

芦屋市企画部市民参画課
課長 山田 弥生 様

(あしや市民活動センター指定管理者)
特定非営利活動法人あしや NPO センター
事務局長 橋野 浩美

実施報告

- 1 事業名：第 10 回あしや市民活動フェスタ「未来つくる芦屋 100 人たぶん会議」
- 2 実施日：平成 29 年 6 月 17 日（土）
- 3 担当：橋野 浩美
- 4 参加者数：98 名
(高校生 35 人、一般・団体 48 人、ゲスト 4 人、スタッフ 7 人、他 4 人)
- 5 内 容
 - (1) 目的：芦屋への想いを若者と市民活動団体が、All 芦屋で知恵を出し合い語り合い、アイデアを実現し、次世代へつなぐ。
 - (2) テーマ：想像から創造へ
 - (3) 内 容：第 1 部 ゲストスピーカーによるパネルディスカッション
第 2 部 私たちの暮らすまち芦屋を考える会議
ディスカッション 1 「芦屋の良さ」と課題を語り合う」
ディスカッション 2 「1 で出た課題を 1 つ選び解決策をまとめる」
 - (4) 振り返り：
 - ・パネルディスカッションについては、山崎氏（ファシリテーター）、大森氏、三宅氏、中田氏（パネリスト）との事前打ち合わせが出来ず、本番を迎えることになった。ディスカッション内容は、よく聴くとメッセージ性はあるのだが「お金持ちのまち」という言葉がクローズアップしすぎたようで、高校生には伝わりにくく思えた。
 - ・グループディスカッションでは、世代間のギャップがあったグループもあったようだが、慣れないグループワークをフォローする大人の姿が目についた。また、議論するテーマがわからないグループには職員がフォローに回った。司会者との打ち合わせ不足を痛感した。
 - ・その他、運営については、芦屋学園高等学校の生徒がボランティアとして受付や弁当配布を手伝ってもらった。参加者の皆さんに声をかけられていたようだった。他、別紙、職員の振り返り参照
 - (5) 効 果：
 - ・多世代が語り合う場の必要性を訴える意見が多くあり、今回、高校生と同じテーブルで話し合えたことに意義を感じた。
 - ・芦屋の知らなかった魅力や、課題をあらためて知る機会を得ることができた。但し、今回は「知る」に留まったことが残念である。
 - ・内容はリードあしやホームページに掲載していく。

(6) 今後の対応：

- ・今年度の会議を受け、アウトプットしたものを次年度に繋げる予定ではあったが、そこまで持って行けなかったため、次年度の持っていく工夫しなければならない。事務局で再構築する。
- ・当初、お知らせしていた高校、2校が文化祭のため参加できなかった。前年度も日程調整をさせていただいたが同様であった。案の時点から繋げていかなければならないことを痛感した。
- ・基本的には、「多世代」「未来に向けたもの」「想像から創造へ」というキーワードは残しておきたいと考える。

(7) 参加者の感想：

アンケート調査はしなかったが、終了後に伺った感想等は以下の通り。

- ・高校生の皆さんの参加は、大変刺激的で、また、未来を支える彼らのグループ討議，発表は感心した。
- ・大人の方々が高校生とも対等に話し合いの場を持っている場面が感動した。
- ・楽しい時間を過ごせた。
- ・長かった。集中力が続かなかった。
- ・ボランティアの方（高校生）は、学校名等わかるようにしたほうがいい。
- ・様々な人と知り合えた。

以上



事務局振り返り

【コンテンツ】

●プログラム全体

- ・パネルディスカッションの位置づけが不明確になり、後半の会議に不自由な「枠」がはめられたように。100人会議が主になるはずだったが薄れたように思われた。
- ・市外の高校生の割合が多く議論が深まりにくかった。大人が高校生を尊重しすぎた。
- ・大森さんの意見にひっぱられすぎた。
- ・グループディスカッション時にゲストにもテーブルに入ってほしかった。
- ・いきなり、パネルディスカッションにはいるのではなく山崎さんに事例発表などのトークをしてもらっても良かったかも。

●パネリスト

- ・パネリストの数、人選。（個別の登壇者にもそれぞれ疑問）
- ・三宅さんが山崎さんを異様に持ち上げていたことに違和感。バランサーとして期待したが。期待外れ。
- ・大森さんは場の意味にあまり共感がない様子で、引っ掻き回して終わった印象。
- ・山崎さんはファシリテーターをしていなかった。
- ・中田さんが一番まともなコメントをしていた印象。
- ・ゲストの得意分野、意見がバラバラでよかった。
- ・ゲストが个性的で、意見が面白かった。
- ・脱線しがちなパネルディスカッションも山崎さんが軌道修正してくれていた。

●参加者

- ・自発的でない高校生があまり主体的に議論に参加できてない様子も見られた。
- ・対象の設定

●グループディスカッション

- ・グループによっては世代間のギャップが埋まらず。
- ・芦屋在住でない（学校には通っていても関心、知識が乏しい）人が多かった。
- ・グループワークの方法に不慣れな人も少なくなかった様子。方法についてインストラクションが必要だった。
- ・何について議論するのかわからず困惑されるグループも。
- ・パネリストがグループワークに参加せず（自分たちでしゃべっているだけ）
- ・司会者が進行を把握していなかったところもあった。

●その他

- ・時間設定（長すぎたためか集中力も切れていた人も）
- ・山崎さんを囲んでのアフタープログラムを実施できず（取材を設定したため）

【ロジ】

- ・名札の指示がいきわたっておらず、最後までつけてない人も
- ・アンケートの未実施

- ・会場の収容人数

【次へ向けて】

- ・今後の進め方の設計方法　・登壇者を迎えるなら認識のすり合わせの徹底
- ・会議主体になるような仕掛け、工夫必要　・誰を参加者と想定するのか

●受付

- ・座席カード、テーブルの数が合わなかった。
- ・当日参加の方の対応を確認、理解しておくべきだった。
- ・会場案内が必要だった。学生受付をボランティアに任せ対応した。
- ・席カードの数、グループ名に誤りがあって混乱した。
- ・会議室 CD のグループ名が机に直接貼られていたため見えにくかった。入口から見えるようにスタンド式にしたほうがよかった。
- ・会場案内係が必要だった。

●昼食について

- ・会場から順番に案内があったので混雑がなく良かった。
- ・ゴミの回収場所の案内が足りなかった。
- ・昼食直前にグループごとのお弁当配布にしたため混乱はなかった。
- ・飲み物のほとんどを缶にして、フリーをコーヒーだけにしていた。お茶もペットボトルでフリーにしてもよかったかも…
- ・受付、弁当配布などスムーズだった。

●備品について

- ・フェスタ当日に養生テープがなくなりかけた。次回はフェスタ担当者に、使用する備品について入念に確認する。

●一階の朝の自転車整備・案内について

- ・歩いて来られる方が多く、臨時自転車を利用する事はなかった。
- ・フェスタ当日に、他イベントの参加者6組程の来所があった。(他イベント(さんぴいす主催)のチラシに開催場所が当センターと記載されていたためと判明。)

●学生ボランティア

- ・事前に説明していたため、一斉に受付をしてもスムーズにできた。
- ・途中体調を崩して学生がいた。引率の先生の不在を知らされていなかったためすぐに連絡できなかった。

●その他

- ・当日はフェスタ以外の利用者・電話も少なかったのがよかったが、センター受付が無人になることが何回かあった。イベント当日の会館業務もしっかりやっていきたい。

